

S49-134187A (1974)

(2,000円)

正

⑩ 日本国特

## 公開特許

特許廳長官 啟  
 1 発明の名称 海中照明方式  
 2 発明者 住 所  
 3 物件登録人 住 所  
 4 代理人 住 所  
 5 諸行書類の目録

(1) 申請書	1通
(2) 図面	1通
(3) 実用新案登録	1通
(4) 諸行書類副本	1通

⑪特開昭 49-134187  
 ⑬公開日 昭49.(1974)  
 ⑫特願昭 48-48003  
 ⑭出願日 昭48.(1973)  
 審査請求 未請求

府内整理番号 ⑮日  
 6658 51 93 F1

明細書  
 1. 発明の名称 海中照明方式  
 2. 特許請求の範囲  
 a. 紫外線反射光源からの光を海中に設置された光反射板で可視光変換して対象物を照らす海中風呂方式。  
 b. 発明の詳細を説明  
 1. 本発明は海中照明方式に関する。  
 2. 海中にて照らす場合、大きい問題となるものに光害現象がある。  
 3. 光害現象は 例えば第1図において、光源1から発した光が対象物2を照らす時に、光

対象物が見えやすいという特性を  
 使って対象物2を見るに際して  
 角度が小さい場合、第3図の如く  
 一度反射板4に当て、反射板4を  
 他の如くして対象物2を照らして  
 角度と照度角度を大きく探し光害  
 する工夫が為されていた。

しかし、目は対象物2を向いて  
 のの光源1から反射板4へ至る間  
 光害現象が起っており、第1図の  
 他の効果を挙げることは出来なか  
 本発明はかかる点に謙み為され

特許

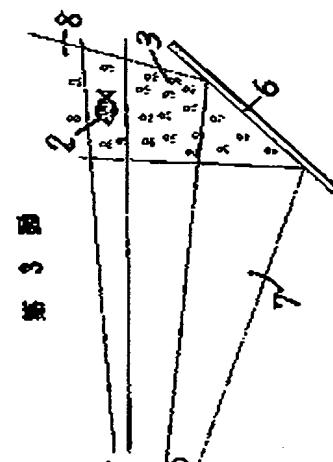
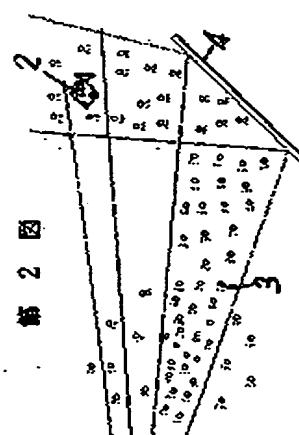
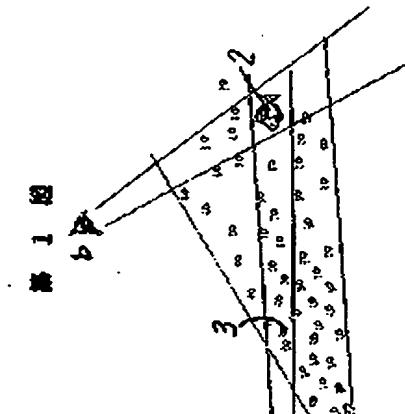
1. 激光反射板6に達した紫外線7は蛍光樹脂を刺激し、激光反射板6から可視光線8が発して対象物9を照射する。

4. 本発明は上記せる如く、紫外線放射光源からの光を海中に設置された激光反射板で可視光を發して対象物を照射する海中照明方式を提供するもので、事實上の光源たる紫外線放射光源と人の目の位置が近くにあっても、実質的には激光反射板から可視光が発して対象物を照らすので、第1図における位置6から対象物を照るのと全く同じ効果があり、光害現象を有効に防止することが出来た。又、付加的には、激光反射板は海中の任意の位置に設置できるので、電線類を用いることなく例えば電塔からなるかに離れて光源を配備するのと同様の効果を得ることも出来る。

#### 5. 図面の簡単な説明

6. 第1図は光害現象を説明する図、第2図は光害現象を除去するために考えられる案の説明図、第3図は本発明による海中照明方式の説明図である。

7.



## 6. 記載以外の発明者、特許権人または代理人

等

## (1) 登録者

住 所

大阪府門真市大学門真1046番地  
松下電工株式会社内

氏 名

## (2) 特許出願人

## (3) 代理人

住 所

大阪府門真市大学門真1046番地  
松下電工株式会社内

氏 名

(7338) 奥運士 佐 譲 或 示

住 所

大阪府門真市大学門真1046番地  
松下電工株式会社内

氏 名

(7387) 奥運士 川 潤 幸